

生涯を完結でききる 空の港町づくり



平成22年3月定例市議会が、2月19日から3月16日まで開かれ、平成22年度予算などの43議案が審議されました。同議会の冒頭に小泉市長が行った施政方針演説の概要をお知らせします。

節減に努め、市民ニーズを的確に反映した効率的・効果的な予算編成に努めました。

一般会計では、対前年度比0・5パーセント増の572億円、水道事業会計を含む特別会計を加えた全会計では、対前年度比0・8パーセント増の801億円余の予算を編成しました。

世界との交流拠点として 市民が誇れる都市をつくる

昨年、国が内陸分離をなくし羽田空港の24時間国際ハブ空港化を打ち出したことと、成田を取り巻く状況は大変厳しい局面を迎えています。

市では、平成21年12月に「成田空港成長戦略会議」を立ち上げ、平成22年2月5日には第1回目の会議を開催しました。成田空港の現状と課題、成田空港と羽田空港それぞれの利便性などについて引き続き協議を重ね、6月ごろに中間の取り

平成19年1月に市政を担うことになり、今年で4年目を迎えます。この間、わたしは、一人でも多くの市民の皆さんに直接会い、現場の息づかいを肌で感じ、足と目で確かめて政策を立案するなど、徹底した現場主義を貫き、市民サービスの向上に取り組んできました。我が国の経済情勢は、依然として改善の兆しが見えない状況にあります。引き続き市民サービスの向上を目指し、市民の幸せを見据え、今やらなければならない施策、事業を着実に実行していきます。

平成22年度予算編成では、「生涯を完結できるまちづくり」の実現に向け、最終年度を迎える「総合5か年計画2006」の計画事業を遂行するとともに、平成23年度からの次期実施計画を視野に入れ、将来にわたって持続可能な財政構造を構築し、重点施策の着実な実施を担保するために、財政の健全性を維持する現状におごることなく、より一層の経費



整備が進む成田スカイアクセス

まとめを行う予定です。成田空港が、引き続き国際線における重要な役割を担っていくという将来像を可能な限り明確にし、成長・発展のための基礎づくりを検討するとともに、成田空港の新たな強みを明らかにして成田ブランドを磨き上げていくことで、成田は遠い・不便といったイメージを払拭し、将来的にも利用者へ愛され、数多くの皆さんに利用してもらうための方策を検討していきます。

愛称が「成田スカイアクセス」に決まった成田新高速鉄道も、7月の開業を目指して順調に整備が進められており、各種試験や新型スカイライナーによる習熟運転などが実施されます。開業すると、成田空港と都心が最速36分で結ばれることから、交通アクセスの利便性が飛躍的に向上することとなります。

成田の新たな玄関口となる成田湯川駅の駅前広場、駐輪場やアクセス道路の整備を引き続き実施していきます。

国際空港都市づくりの骨格をなす北千葉道路整備事業と首都圏中央連絡自動車道整備事業、都市計画道路の湯川線やニュータウン中央線、大蕪新宮線、赤坂台方線、大袋線についても、着実に整備を進めていきます。

JR成田駅東口の再開発事業については、新年度から本格的に事業を展開し、早期の完成を目指していきます。

地域住民の重要な交通手段となるコミュニティバスの運行については、各地域の利用者の需要に応じた運行を検討し、交通の不便な地域と公共施設を結ぶ有効な交通手段として充実させます。また、4月から新たに高校生のための通学定期券の発行を開始し、保護者の負担の軽減を図っていきます。

市民がいきいき働く、活力ある産業を育てる

市の観光キャラクターが、「うなりくん」に決定しました。着ぐるみや関連グッズを製作し、観光大使として活用することで、市のイメージアップに努めます。また、引き続きベイエフエムのラジ

オ番組を通して、成田を広く市内外にPRするとともに、観光立市をさらに推進し、観光客に十分満足してもらえるよう、おもてなしの観光行政を展開してい

きます。

厳しい経済状況の中でも中小企業が円滑に資金調達できるよう、中小企業資金融資制度の運用を迅速に行うとともに、利用者の負担軽減を図るため利子の一部を助成します。また、市内の商工業の総合的な振興を図るため、商工業団体に対して助成を行うとともに、雇用につながる企業誘致の推進に努めます。さらに、全国的に新規雇用創出が急務となっていることを踏まえ、市でも、県の緊急雇用創出事業補助金を活用し、臨時職員を雇用することにより、新たな雇用機会の創出に努めていきます。

国が、農業経営の安定を図るため生産費と販売価格との差額を補てんするという戸別所得補償制度を、平成23年度から本格的に導入することを予定し、事業の効果や円滑な事業運営を検証するための



米の戸別所得補償モデル事業を新年度に実施することから、市でも、担い手の育成確保などの農業経営の基盤強化や生産基盤の整備などに努めていきます。また、地産地消の促進、ブランド商品の育成や消費者ニーズに対応した高付加価値農業などを支援するとともに、農業のPR、都市と農村の交流などを進めます。

市民一人一人の健康で、生きがいを持った生活を支える

少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てを取り巻く環境が大きく変化の中で、社会全体で少子化、次世代育成支援に取り組んでいかなければならないと考えています。

そこで、保育園や児童ホームなどの整備については、老朽化の進んだ高岡保育園の大規模改修工事を実施し、低年齢児の保育と小学校の低学年児童の受け入れの充実を図るとともに、赤萩保育園と玉造保育園の定員を増加し、低年齢児を対象とした保育サービスの充実を図っていきます。また、千葉県安心こども基金による補助金を活用し、私立保育園の施設整備費の一部を助成することにより、児童保育施設の改善と定員の増加を図り、待機児童の解消に努めていきます。さらに、4月から児童ホームの土曜日の開所時間を延長するとともに、神宮寺小学校の敷地内に建設中の神宮寺児童ホームを

オープンし、放課後児童の健全育成の充実を図っていきます。

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活が継続できるよう、介護予防事業に認知症予防を加えるとともに、独り暮らし高齢者などへの支援の拡充についても取り組んでいきます。そこで、65歳以上の独り暮らし高齢者と高齢者だけで構成されている世帯の実態調査を新たに実施し、早期に福祉サービスを行う必要がある高齢者を把握するとともに、多様化する福祉ニーズを調査します。また、配食サービスなどを受けていない70歳以上の独り暮らし高齢者を対象に、孤独感の解消と安否確認を目的として、新たな見守り支援事業を進めていきます。さらに、75歳以上の高齢者の疾病予防、早期発見・早期治療に役立てるため、新たに人間ドック



介護の実践的な知識を学べる介護予防教室を開催

クの経費の一部を助成します。

障がい者福祉については、新たに小児慢性特定疾患の子どもを対象とした日常生活用具の給付事業を創設し、福祉の向上を図ります。

深夜・早朝における一次救急医療体制の確保については、市で経費を負担し、引き続き成田赤十字病院に対応してもらうことで現在の体制を維持するとともに、5月から医療相談ほっとライン事業をスタートさせ、24時間、365日、市民の健康・医療・子育てなどの悩みについて、医師や保健師などがアドバイスを行います。

乳幼児の細菌性髄膜炎を予防し、健全な育成を図るため、生後2カ月以上5歳未満の乳幼児を対象とするヒブワクチンの予防接種費用の一部を助成します。

若年化している子宮頸がんを予防するためのワクチンが平成21年10月に承認されたことから、10歳から15歳までの女子を対象に、予防接種費用の一部を助成します。また、乳がん検診の30歳から38歳までの偶数年齢者に対し、新たにエコー検査を追加するなど、検診の充実に努め、市民の健康を支えていきます。

市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む

学力の向上と個性を生かす教育の推進を図るため、少人数学習推進教員や特別支援教育支援員などを学校に配置します。

また、複式学級を支援するための小規模学校支援教員や、心と身体の健康づくりを進めるための健康推進教員を配置し、多様な教育支援策を積極的に行っていきます。

本市の特徴的な教育の一つである英語教育においては、市立全小中学校に外国人英語講師を配置することにより、小学校では英語科を設置して英会話にふれる活動を実践し、中学校では英語の授業の時間を拡大して英会話力の向上を目指します。

学校施設の整備については、向台小学校と高岡小学校の校舎の耐震補強工事、小中学校の屋内運動場の耐震補強工事や補強設計を進めていきます。また、中学校に引き続き、小学校の普通教室にエアコンを設置し、快適な学習環境の整備を図るとともに、学校適正配置により中学校分離開新設校の実施設計に着手していきます。

栄養豊かでバランスのとれたおいしい学校給食を提供するとともに、地産地消あるいは食育の観点から極力、地元成田産の食材を使用します。老朽化が進んでいる給食センター(玉造)に替わる、新たな給食施設の整備に向けて、実施計画を策定します。

生涯学習の推進については、明治大学・成田社会人大学や高等学校等開放講座などのさらなる充実を図るとともに、高齢者の学習の場である生涯大学院



目前に迫った国体 おもてなしの心で(リハーサル大会で)

のより一層の充実を図り、多様な学習機会の提供に努めていきます。また、地域住民の参画を得ながら、子どもたちが学習・スポーツ・文化活動などの交流活動を行う放課後子ども教室推進事業の充実を図るとともに、家庭教育の向上を目指し、幼児期・小中学校の家庭教育学級を開催します。

スポーツを愛し、スポーツを通して健康な心と体を育み、明るく豊かな成田市を築くため、引き続き市民スポーツ・レクリエーション活動の推進と各種スポーツ施設の整備・充実に努めていきます。

第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」と第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」がいよいよ本番を迎えます。全国から多くの選手、監督、大会関係者が訪れますので、たくさんの方

市民ボランティアの力添えにより、おもてなしの心で温かくお迎えできるような方々の体制で臨みます。

市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる

局地的なゲリラ豪雨、台風と地震が重なり合うなど複雑・多様化する災害や、南関東直下型地震の発生に備え、市民参加による総合防災訓練を実施するとともに、水防技術の向上と水防体制の強化を目的に水防訓練を実施します。大規模事故対策訓練については、航空機事故を想定し、行政・空港会社・医療機関をはじめとする関係機関が一体となり、消火・救難などの総合訓練を実施します。

市の施設の耐震補強設計や耐震改修工事を引き続き実施するとともに、木造住



万が一の備えを万全に

宅の耐震相談会の開催や耐震診断、耐震改修を支援することにより、建築物の耐震化の促進を図り、災害に強いまちづくりを推進します。

消防については、老朽化した赤坂消防署の建て替えのための実施設計などを行い、消防環境の整備を進めます。また、成田消防署に配置されている高規格救急自動車の更新を行うとともに、救急救命士の育成、市民の皆さんへの応急手当法の一層の普及などにより、救急活動の充実と救命効果の向上に努めていきます。

近年、より高度な消防サービスへのニーズが高まっており、また、大規模な災害などにおいては、近隣市町村に対し迅速かつ集中的な広域応援を要請しなければならぬなど、消防指令業務の広域化が求められています。これらを踏まえ、県内を2つのブロックに分けて県下消防本部が指令業務を統一的に運用できるように、共同指令センターを平成25年度に開設するため、実施設計などを進めるとともに消防救急無線のデジタル化への移行も併せて進めていきます。

JR成田駅西口に設置した駅前番所に加え、犯罪抑止重点地区や無人駅などを中心に、青色回転灯を装備した移動えきばんにより市民の安全確保に努め、安全安心に暮らせる地域社会を実現します。また、9台の青色回転灯パトロール車による防犯パトロールや自主防犯パトロール隊への活動支援を行うなど、市内全域

での犯罪抑止活動を展開します。

平成21年10月から実施している住宅用太陽光発電システム設置費の助成を引き続き行うなど、市全体で地球温暖化防止のためのCO2削減を推進してまいります。

新清掃工場の整備については、平成21年に工事などの契約を締結しました。早期完成に向けて事業を進めるとともに、その余熱を有効に利用する温浴施設や多目的広場などの整備も進めていきます。

また、第1期のいずみ聖地公園拡張整備事業により整備した724基の墓地の供用を開始します。

市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う

利便性の高い市役所実現のため、現在試行により実施している休日の窓口サー



第2・第4日曜日は休日窓口サービス

ビスを、6月から本格実施するとともに、総合窓口の検討など窓口の改善に努めます。

また、市民の自主的活動と世代を超えた相互交流の場とするため、コミュニケーション機能を核とした(仮称)公津の杜複合施設の実施設計を進めます。

生涯を完結できる空の港町づくりを

デフレ経済の下、足を棒にして会社を回る学生たちがあふれる現在の日本社会は、明日への希望が見えない寒々しいものです。

希望を社会科学的研究している東京大学の玄田教授は次のように話しています。

「希望は幸せな時や楽しい時ではなく、厳しい現実立ち向かっていく時に、湧き上がってくるものである。希望は、伝播するものである。誰かが希望を持って行動すると、必ず誰かに伝わるものである」

わたしは、この成田市から希望を生み、希望を発信することで、必ずやほかの地域にも伝わると信じています。社会を動かす風になるという決意で、平成22年度も「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の生涯を完結できる空の港町づくりを目指し、市政に全力で取り組んでいきます。

*施工するために必要な図面を作る段階